

酒賞優統建國全

福美

釀造店酒家四・郷内

卷十二

洋酒と喫茶
麗人のサ・ビズ
氣分本位の店
タイラ・ギンザ通り
グリル
バツ
カス
電七二〇番

優等賞受領

登錄商標 稻萬歲 妻

植田町

古川酒造店吟醸

電話一六番



鑄物の代用品生る

セメント製マンホール 金貳圓が各種
同 風窓網 金四十圓が各種

平市南町二〇

發賣元 野内商會

電話一一番

燒土管 在庫豊富

最新流行の

下駄と草履

ドコヨリモ安い 三井履物店

平南町電話一八一番

中古各種レール鐵管 賣
礦山用機械・機具類 買
二大製鐵會社特約店 仲
海軍工廠御用達 介

合資 平銅鐵機械商會

代表社員 井尻七三郎

平市銀治町九電話五二二番

御買上品は精々御安く納品致します
御拂下げ品は精々高價に買受けます

電話五九二番

に廻りました

喫茶 食事を 兼ねた

レストラン サロン

平市銀座街

定評有る...大塚の

男女學生靴 特賣

牛皮製々品最後の奉仕

◎自製ボックス編上靴(平商)

◎自製 磐女: 指定通學靴

◎月星白運動ズウク靴

純綿...純ゴム底の舊製品

各種運動具豊富に揃つて 居ます

靴製造見習 募集

月給制度: 御面談

大塚

電話七十七番

西村屋藥局

電話 3 番です

藥品百貨

寫真機材料の店です

平市本町二丁目

西村屋藥局

腸胃病 花柳病科 泌尿器病科 皮膚病科 肛門病科

専門

院醫科腸胃病性村松

(番七〇一電) 町南市平

療

用應氣電力強 効特に痛經神



小兒科科

吉田醫院

醫學博士 吉田正

療診 午前九時より 午後五時迄

婦人科 院長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内木宗八
藥局 藥劑師 大岩俊雄

木村病院

外科一般

金成醫院

金成忠義
平市鎌田町(電話三五八番)

冷凍魚

日本水産特約(電三六三三六)

卸賣平製氷會社

尾箱平代理店 平魚問屋

警城時報

行發日一卅
印刷所 警城時報社
印刷人 岡田弘成
印刷部 警城時報社
發行所 警城時報社
電話 警城時報社
廣告料 一行一十元
日刊(日曜祝祭日) 翌日休刊

第七百六十三號付録
平市出身將兵
慰問特輯號

郷土勇士諸君 に感謝す

皇國が東洋永遠の平和のため正義の矛を執つて一年有半、世界に冠たる皇軍は戦へば必ず勝つ、今や支那全土を席捲し新東亞建設の力強い第一歩を踏み出したことは同慶に堪えぬ次第である、これに天皇陛下の御威威の然らしむることは勿論であるが、また實に忠勇無双なる我が皇軍將士の勇戦奮闘の賜に外ならない、思へば今次事變發生以來百度を越える炎天に、或は零下三十度の嚴寒に頑敵、病魔と戦ひ困苦欠乏に打ち克つて聖戦遂行に邁進しつゝある我が郷土出身將兵諸君に對し吾等はたゞ感謝の涙に咽ぶのみである、三萬五千の平市民は第一線に在つて露忠報國の誠を致しつゝある將兵諸君の御勞苦に酬ゆべく協心戮力一心同体となつて銃後の護りを果しつゝある、本社はここに、長期建設下ますます躍進發展を遂げつゝある平市の近況と、完璧の銃後報告を綴り將兵諸君を御慰問申し上げたいと思ふ、親愛なる吾等が郷土將兵諸君に對し銃後陣は本特輯號に見らるゝ通り鐵壁の如く堅い、願はくは大いに意を休んじて愈々奮闘、東北健兒の意氣を高き中外に宣揚されんことを祈る

事變下なればこそ

平市も長期建設時代 苦難の中にも發展著し

平市は昭和十二年六月市制を施行し輝やかき市制第一年度の建設時代として新興都市の施設形態を遂へんとする時に當り、今次事變に逢合し時局の影響を受けて市制内外萬般の計劃も一時中止或は延期の止むなきに至り、續く昭和十三年に於ても事變の擴大進展により戦時體制下の國策對照、銃後施設の擴充強化に専ら多忙を極め、所定計劃の遂行に妨げられしや、その苦難時代の中にも年來の懸案たる公會堂建設、商業學校新築等の大事業完成を見、更に職業紹介所の國策移管、國民休向上機關としての保健所の新築開所等を始め近代都市としての形態は漸く整備されるに至つた、市制施行後は商工業の繁榮躍進實にめざましく、人口増加また著しいものがあり、市制施行當時の戸數五千六百、人口三萬二千は十三年十月現在で五萬九千二百一十一、三萬三千七百六十三人と激増を示し平市の急速な發展を雄辯に物語つてゐる、事變發生以來三萬五千市民は第一線にある市出身將兵諸君の勞苦辛酸を思ひ銃後を全うし市勢伸張を計り、節約貯蓄以て國家の重大事局に協力すること、市民の責務であり將兵諸君に對する最大の感謝の表現であるとして、總親和と總努力、今や平市も長期建設に向つて邁進しつゝある

市會總親和を反映し 原案通り無修正可決

市長苦心の編成 十四年度豫算

平市の豫算を賄ふ十四年度の豫算、矢吹龜、酒井、永山、吉田實は經常部三十一萬五千六百四、算市會は三月二日午前十時開會の十三名の委員附託となり、次臨時部十三萬三千四百五十六圓、出席議員二十八名(非上座作、いで青沼市長から豫算案に對し計十四萬四千三百六十二圓、馬目雅治氏死去のため二名欠る施設方針を説明、議案審議のこれに特別會計(公益質屋敷三員)豫算案審議に先立ち豫防團ため二、三兩日休會、五日の休會三千六百八十圓加へると合計組織に關する豫防團附屬案を附議、會明け市會に豫防團組織に關し四十七萬七千二百九十二圓となす青沼市長の説明あつて議長指名に依り
野崎、進治正副議長、關内、松本、金古、川崎、鈴木、堀、と、七日本會議を開いて原案と十七萬二千圓の大減額案通り可決確定した、總豫算額を見てゐる、政府の指示に基き

銃後擴充に重點

新豫算の内容を見る

別項、明年度豫算案出經常部は豫算案の舊校舎を充當すること三十一萬五千六百四圓で前年當初に成つた、商業學校費は千二百豫算に比較し一萬三千四百圓増額、縣下一の入學難を緩和の増額である、主なるものを舉げるため一學級増し十一學級とげると役所費で五千七百圓増額し募集人員を百名から五十名増、物價高に備へ市長、助役を除き、公費員、勤勞費も多少増額を見、全吏員に總花的な増給を行ひ平均給料五十圓に昇格、定評のあつた安月給の市吏員も漸く他と肩を並べられるやうに成つた、農業方面の開発に資し新たに産業技術員一名を置き、從來農會まかせでた産業の直接指導に當らしめ、銃後教育の完備を期する目的の下に市視學を置くなど市制實施に依る發展への片鱗を示してゐる、小學校費では五編成する事と成るが豫算費に於て四百五十四圓減じ千四百計六十八圓の新規計上を見てゐる、學級數が第一校、第二校二、三學級増加に依る自然増額で千六百五十四圓と成つた、社會事あつて、既定計劃の第五小學校費方面は銃後施設として最も重要視され、増加の數は當分商を主眼とした明年度豫算中特に

市廳舎増築

防空と社會事業費

時局柄特に増額計上

警防費と防空費は警防團組織と幾分増加させ救助、救護、母子、同時に包含し、更正豫算を追加、社會施設等に萬全を期し、出延應召軍人相談所負擔費三百六十八圓の新規計上を見てゐる、公園梅林跡に作る

兒童遊戯場

公園梅林跡に作る

和衷協同、以て

奉公の誠を捧げん

平市長 青沼鋒太郎



石政權を飽くまで打倒演滅せしめ、一面更生新變の建設の使命を以て成立せる親日防共の新政權を、成し、所謂共存共榮の精神に基き日滿支を、樞軸とする東洋民族の大團結の下に相互提携、共同防共、經濟提携を實現し東洋永遠の平和体制を確立することが我日本に課せられたる重大使命

市民運動場

第五校敷地開放

第五小學校豫定敷地は商業學校用地に移譲した爲、第五校敷地は新たに西部方面に求め、十一月十六日埋立工事に着手、同第五校建設を起債關係で明年度見合せの結果、土地整理後は市民の運動場に開放される

市公益質屋

六月頃迄に開業

平市では市制施行後、最初の社會事業として市公益質屋を設置し庶民階級の金融機關として活動すべく十三年度豫算にこの事務所建設費、運轉資金を計上したが時局關係で起債認可が遅れ更に白銀町に豫定した敷地が不適當などの理由から十四年度に繰延べとなつた、目下場所の選定中で新年度早々には決定、六月ころまでには店開きの運びとなるものと見られ庶民階級から實現の日を待たれてゐる

長期戦の目的遂行に邁進せねばならぬことを一層深く感ずるものであります、吾等は益々結束を固めしつゝ寸毫の過怠も無く不動磐石の意氣を以て、聖戰の目的貫徹に邁進し、以上、聖明に應ひ奉ると同時に市民として良き市制の將來に對し深き理解を以て躍進大平市の建設は懸つて吾々の双肩に在ることを自覺、三萬五千の市民各位と共に其の業務に精勵し和衷協同以て奉公の誠を捧げ市政の圓滿なる發展向上に寄與せんことを念願するものであります(年頭の辭より)

躍進平を象徴する

文化の殿堂 平市公會堂

市民有志の協力で完成

平市出身の鹽山王三井榮一氏が建築基金に一万圓也、ト投げ出し寄附したのを動機に市民の寄附金合計五万六千圓を合せ總工費八萬圓で昭和十二年七月堀江工業會社請負起工した市公會堂は材料の騰貴と別棟附屬日本間併置によつて工費を十二萬圓に増額更正、順調に工を進め同十三年八月二十三日竣工、備品及内部の裝飾を翌十月三日晴れの竣工落成式を舉行一般に開放した

新築成つた公會堂本館は建坪四百五十二坪(内一階二百九十一坪、二階百七坪、三階二十八坪、地階物置十八坪)三千人を收容する東北一を誇る大公會堂である

様式はゴシック式(玄關アルヌーボー式)木骨鐵網コンクリートの近代的な堂々たる建物である



瀟灑な附屬日本間

工費は釜屋が全額寄附

附屬日本間は本館南側に併行して建築、十二月二十五日竣工した

建坪は百二十七坪、純日本式せう酒な建物で四十八疊敷二間と外に三間から成つてゐる同公會堂の附屬日本間建設に際し釜屋商店請負久太郎氏は寄附金を五千圓増額、合計一萬圓也の個人寄附で日本間が出来上つたことになり、市公會堂の建築に當つて釜屋さんの功績は銘記すべきである(寫眞は日本間)

利用頻繁

開館以來約百回 用頻繁を極め二月末日まで四月間の使用数九十四回の多數に上つてゐる、月別使用数は左の



十月二十二回、十一月二十四回、十二月二十回、一月十九回、二月九回

出征兵遺家族慰安會に利用

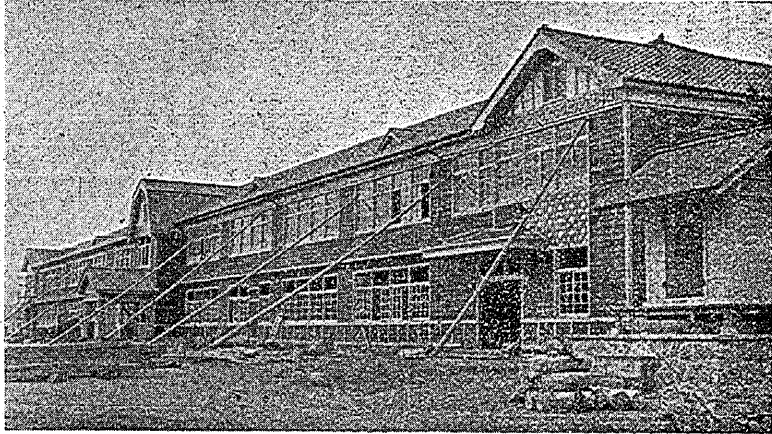
各方面から歓迎 昨年末から市公會堂に於て開催された出征兵遺家族慰安會の催しは左の如く春と共に各方面で色々な計劃を進めてゐる

▲市會(十一月六日)
▲市聯合分會長藤田榮助氏を

平商新校舎竣工

新川南部に一偉觀

縣案の市立平商業學校々舎は工費決定地へ新築に決定、昭和十三年九月十日着工、同校々女生



東西へ延長六十間、南北長六十六間、商友會寄附の講堂は開口六間、奥行十六間の間現會長室橋光氏始め副會長、興行十六人の生長比佐三郎氏(目下應召中)幹事徒を收容出来る鈴木武雄、木田謙二、坂本忠治堂々たる建物で會計幹事宮川義一氏外幹部一同滿三年間に亘つて東奔西走席グランドの如きは温る間も無く、而接した寄附者約六千坪の廣大な面積を有し中等學、幹部一同如何に努力したか校では東北第一位と號がはれる

の校庭で、狹隘に失した現在のグラウンドから開放されて野球の練習もノビノビと出来、向上進歩するものと期待をかけるのである、尚校舍新築と同時に入學率百人に對し四十六人から成る平商友會が一萬七千圓と云ふ縣下一の工費を全額負擔して講堂費をためた員數を五百人から七百五十人に増加する事になり主務同時に工を起し、新學期に間に許可の指令が到達した、この結果はすべく晝夜兼行で工を急い

平署演武場と新築

鹽山王三井氏の寄附で

市公會堂の建築基金に一萬圓を寄附した市出身の鹽山王三井榮一氏は菩提寺である大寶寺へ建費七千圓寄附、更に十二月末日郷土平出身の第一線將兵全部へ一個四圓以上相當する慰問袋を單獨發送し其の他公私を問はず平市に盡してゐる功績は頗る多く全市民から感謝されてゐる

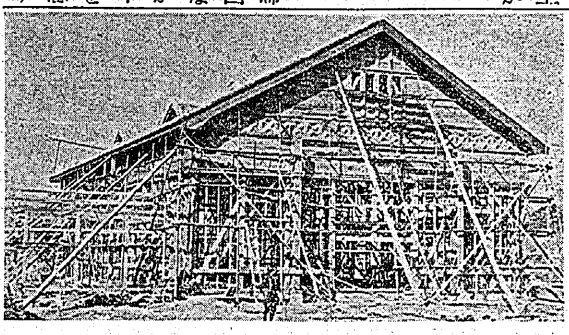
母校愛の結晶

平商講堂が落成する迄

別項、商業學校新築に導いた案は同校卒業生から成る平商友會が「講堂は我々校友生で作るから校舎は是非新築するやうに」と昭和十一年四月から講堂資金造成に着手したことが興かつて力あり、現商友會幹部の功績は學校と共に永遠に銘記すべきである

商友會が講堂建築資金造成の

計劃を樹てたのは昭和十一年二月頃、總會を経て同四月から寄附金募集に着手、當初一萬圓の豫算を樹てたが設計の結果一萬二千圓に増額、物價騰貴に依る資材高に動かされて更に一萬七千圓(内電燈照明設備費五百圓)に増額市會に於て正式寄附採納が承認されたが竣工すると更に備品



- 本號刊行に協賛、御援助賜つた發行贊助芳名
- ▲平市組合銀行
 - ▲平製氷株式會社
 - ▲平病院長、醫博鈴木定藏氏
 - ▲平市無難株式會社
 - ▲平市軍事後援會
 - ▲國防婦人會(第一、二、三)
 - ▲平市聯合青年團
 - ▲平消防組
 - ▲平市在郷軍人聯合分會
 - ▲平警察署
 - ▲平職業紹介所
 - ▲平市民金庫
 - ▲藤田女學校後援會
 - ▲片倉製鐵株式會社
 - ▲釜屋商店請負久太郎氏
 - ▲代議士三井榮一氏
 - ▲東京、三井榮一氏
 - ▲平鐵道置屋組合
 - ▲平西洋料理屋組合

職業紹介所國營移管

市役所前に廳舎と新築

失業者を救済し適材を適所に按分、銑後の職業戦線を強化する目的の下に昨年七月一日附で平職業紹介所は國營に移管され、

紹介所の事務は現在の紹介指導事務の外に國民總動員案に依る國民の技能登録並歸還兵、傷病兵の就職斡旋

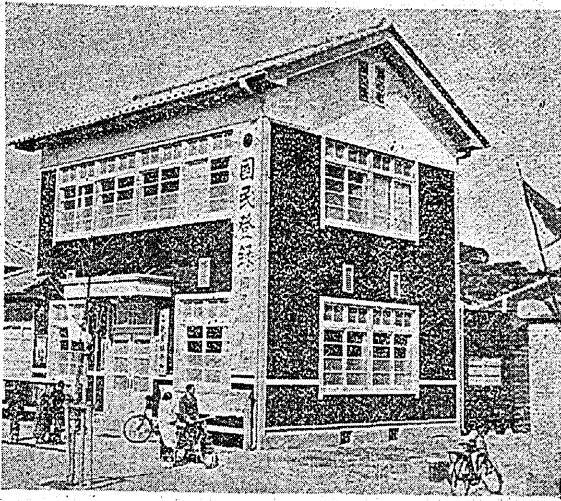
更に事變後の勞務調整を計るに
ついても今から充分配慮して
臍の悔を貽さぬ様配慮せねば
ならぬ、之が爲には國策に順應

する事は到底不可能である、之が公營より國營となりたる所以にして全國に四百ヶ所、縣下九ヶ所に設置せられ、銑後新設機

月二十八日着工、二月二十八日竣工したので三月十九日木の
新らしい『平署五丁目巡査所』の看板を掲げ盛んな落

昨 年 十 月 十 一 日 一 週 間 に 亘 っ て 、 敵 機 の 空 襲 に 備 へ る 昭 和 十 三 年 度 第 二 次 防 空 訓 練 演 習 は 十 一 月

月の防空演習



市役所構内正門西側へ廳舎を新築本年一月二十二日竣工移轉して新事務所を開所した

國立平保健所

國民體位の向上機關

縣下に唯一の施設

は特に力を盡し、所員二十一名で激務に追はれてゐる（寫眞は新装の平紹介所）

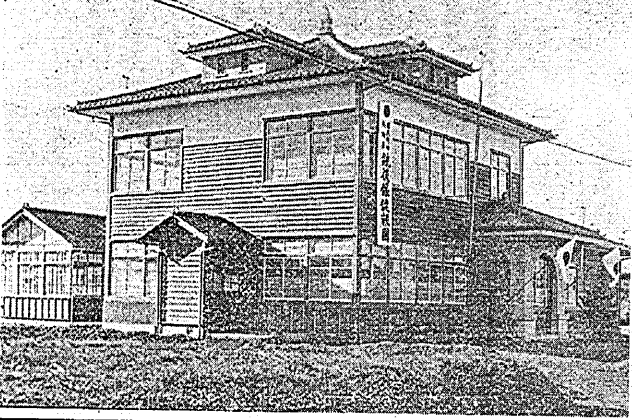
國民の地位を向上せしめ銃後陣營に於ける人的資源を

國營後の事業

所長立澤高元氏は群馬縣館林町の出身、宮崎縣警視、宮崎警察署長の厳めしい肩書とサインペルを脱いで平紹介所の初代所長となつて、本年四十三歳、本特輯號發行に當り特に市出身將兵に對し左の一文を寄せられた

てゐます、然らば何が故に國
に於て現在如何なる方面の仕
を擔當してゐるか、以下簡潔
に御報告申し上げます、我國
の情勢より國內諸政策に照
する爲に勞務の適正なる配
を圖る事は極めて緊要であり

が指導機關として政府は保健所法を制定、平市八幡小路（元磐中グラウンドに）本縣最初の『福島縣平保健所』が設置された。正式平市に決定



銃後治安を護る

本田署長以下平署の奮闘

今次事變以來平警署は應召者は應召兵留守宅保護に努め、本關係、經濟警察事務等統後の行署と駐在を問はず全署員を將臨政事務は急激に増加し、本田署管内應召軍人留守宅を見舞はせ長以下全署員舉げて執務に違はる。應召の召集日には應召兵の武裝されてゐる、懸案の市内東部派出所長久の社頭に祈願、去る十日の所が市民の協力に依つて完成、陸軍記念日には松ヶ岡公園忠魂、東部住民は趣からざる便宜を碑前で戦歿軍馬の銅鑾象を執行受けることに成つた、本田署長統後の護りを固めてゐる。



犯罪は減つた

本田平署長談

は銃後を語る
警戒時報紙を通じて、平市出身
の名譽を獲得、傳染病などに
至るまで油斷につけねらう災
厄は凡て減少の傾向にありま
すことは、銃後國民の緊張を

福引全廢申合せ

初賣風景

福引全廢申合せ

恒例の舊正月初寅より自肅を申す
市内各商店では、懸念の力金に基
合せて、幅引付き賣り出しを全
景最も般小限度止め例年
前一時、二時閉店であつたの
一律に午前六時閉店を嚴守
することをやめた、この市内内第
五丁目釜屋商店では斷然賣
平市は昨年十月から商店法を實
施したので市内商店は正月、盆
等の特殊期間を除き營業時間は
午後十時限りと決定、また店員
慰安のため毎月一回以上の公休
日を設けることになり毎月二十
日は公休日ときめたのでこの日
は各商店とも大扉をとぎし、店
員諸君は自由に一日を過すこと
が出来るやうになつた

商店法の實施

市は昨年十月から商店法を實施したので市内商店は正月、盆の特殊期間を除き営業時間は午後十時限りと決定、また店員安のため毎月一回以上の公休を設けることになり毎月二十を公休日ときめたのでこの日各商店とも大扉をとざし、店諸君は自由に一日を過すこと出来るやうになつた。

市民の赤誠を資金に

平市軍事後援会の活動

平市では事變發生後間もなく出征軍人遺族慰問救護機關として、市内各方面の名士を組織した平市軍事後援会を組織し、活動資金として市内各區から寄附金を募集したところ、忽ち一萬三千五百圓が集まり、其後も殆んど毎日の如く寄附申出があり、十三年末には累計額に二萬三千圓を突破するに至つた、後援会ではこの市民の赤誠に對しては軍事扶助法に依ると否とに拘らず毎月定期的に慰問、氣の毒な家庭に對しては金品の贈與をなし又社會事業助成會或は職業紹介所と常に緊密な聯絡をとつて職業の斡旋につとめ、戦死者の弔祭、遺族扶助方法等に誠心涙ぐましい奮闘をつづけて居る、然も今回政府の方針により銃後々援會はすべてこれを銃後奉公會と改稱し軍事後援事業の整備強化を計り益々銃後奉公の實を擧げることになつたので、平市軍事後援會も近く平市銃後奉公會と改稱し従来の遺族慰問救護の擴充強化を計るは開始した

▲昭和十二年九月出征軍人に慰問し金一千圓を贈る
▲昭和十三年一月出征遺族慰問金二百圓を贈る
▲同年二月出征遺族慰問金三百圓を贈る
▲同年三月出征遺族慰問金二百圓を贈る
▲同年四月出征遺族慰問金二百圓を贈る
▲同年五月出征遺族慰問金二百圓を贈る
▲同年六月出征遺族慰問金二百圓を贈る
▲同年七月出征遺族慰問金二百圓を贈る
▲同年八月出征遺族慰問金二百圓を贈る

遺家族を救済する

ミシン縫製作業

理在四十余名が従事

平市社會事業助成會では從來も貧困家庭のために授産事業を行つて來たが、昨年六月からは出征軍人遺族のためにミシン縫製作業を行ふことになり、四十名のミシン無償貸與を受け、小規模平陽女學校の一部を借りて六月二十八日から事業を開始した

現在鈴木しげを、金古まつ、三村きよの、笠原ちよの四婦人を指導員として四十八名の出征遺族が、力強くミシンを踏んで銃後の護りを勤めてゐる、朝は八時から四時まで働いて一日平均五、六月から一圓近い収入となる、助成會では政府の府審報に國策に則り一ヶ月の稼働高のうちから一割宛の天引貯蓄を可能ならしめる筈である

銃後生活確保は

國防婦人會の手で

雄々し白たすきの健闘

▲昭和十二年九月出征軍人を慰問し金四百圓を贈る
▲同年十月出征及在滿將兵遺族慰問金五百五十四圓を贈る
▲同年十一月出征遺族を慰問し金三百圓を贈る
▲同年十二月出征及在滿將兵遺族慰問金四百圓を贈る

動の第一線に目撃ましい奮闘を或は霜凍る夜半まで〇〇列車をつづけてある平市國防婦人會は現在千九百余名

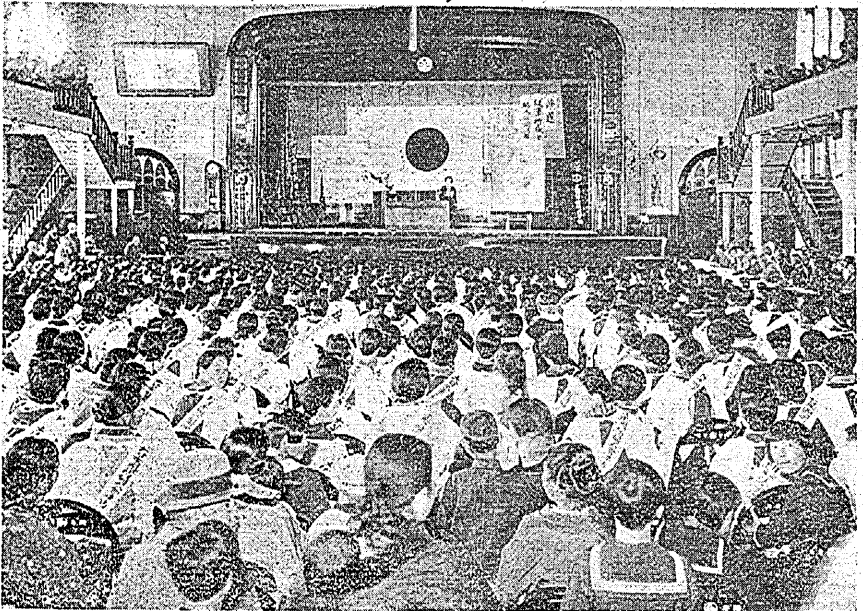
支部長青沼市長、副支部長山崎菊子、藤田郷軍分會長、理事藤田ミエ、藤井ヒサ、井上巳子、萩原たけの、若松捷子、大間喜繁、長谷川政、會計監事四家泰治、清野キヨ

諸氏の熱心なる統制下に市内を五分會に分け

第一分會門傳登美力、第二分會久野ひさ、第三分會青沼勢以子、第四分會志賀豊吉、第五分會上川キヨ

各分會會長以下、男も及ばぬ銃後支援は誠に涙ぐましいものがある、聖戰勃發以來征途に上る市出身の勇士を驕頭に歡送すること九十一回、雨の夕雪の朝

十月の總會に先づ遺族を招待し整理費としてこれを市軍事後援會に寄附した(寫眞は廢品回収運動に参加した國婦人團は昨年十二月二十六日から三



遺家族慰問は

すべて國婦で

出征軍人遺族を慰めて慰問し家族を慰める優しい心から昨午品を回収、山と積まれた廢品を



廢品回収奉仕

長期戦は經濟戦であるとして政府の廢品回収運動に参加した國婦人團は昨年十二月二十六日から三

曉詣り祈願

出征將兵戦傷者ならびに各分會では昨年十月から曉詣り族慰問、殉國勇士英靈と遺族を實行、毎月一日、十五日早朝の弔慰、生活改善貯蓄節約に縣社子銀倉、飯野八幡の兩社に一段の努力をなすべく銃後勸皇軍の武運長久を祈願してゐる

幹部の人々



第三分會

分會長青沼勢以子さんは青沼市長夫人で、おの老齡にも拘らず、市長

第一分會

分會長門傳登美力さんは辯護士門傳清吉夫人、その精力的な活動が會員諸君の熱心な活動の中心となつてゐる、その報告整理等で徹夜する事もめづらないといふ、副會長の四家むの(市社會課長夫人)後山しづ(第一校長夫人)と共に名トリアを形成して常に他分會をリードして居る

▲理事桑原ナカ、蛭田イサ、阿部コト、班長川崎トク、鈴木治代、根本フミ

平消防銃後會

平消防銃後會では事變以來「平消防銃後援會」を組織し組員の出征に際しては饗別、歡送してゐるが、既往二回に亘つて第一線へ慰問袋を發送、消友會報は毎月送つて殘留組員の消息を知らせ、遺族慰問、慰籍等には特に留意、水火災の万全を期し銃後に於ける市民の生命財産保護に當りつゝあり、警防團に改組されても軍事後援會は存続する模様である

平市警防團誕生す

消防組と防護團に代つて われらの空と銃後を護る

大開演

本部直轄各部

▲警防部長 安齋勝美、同副部長 正勝、防務部長 關内正一、同副部長 小野弘、救護部長 清水廣政、同副部長 星恒明、交通部長 長谷川士喜伯、同副部長 高崎晴明、工作部長 堀江新太郎、同副部長 渡邊康、配給部長 金子重次、同副部長 五十嵐茂、避難部長 長谷川喜一、同副部長 馬場武太郎、消防部長 田次郎、消防常設部

團長關内氏



▲第一分團

▲分團長 山崎忠兵衛、同副部長 部六、消防(水防)部長 阿部定、同副部長 田中清、警務部長 坂一雄、同副部長 關内庄平、燈火部長 鈴木良平、同副部長 菅野、同副部長 鈴木良平、同副部長 菅野

▲第二分團

▲分團長 野崎喜八郎、同副部長 木宗八、消防(水防)部長 水野、同副部長 小島一郎、警務部長 長崎正茂、同副部長 石川榮、燈火部長 菅野、同副部長 菅野

▲第三分團

▲分團長 關内正一、同副部長 古川龜太郎

「警防團員の覚悟」

平警防團長 關内正一

人材網羅

強固な編成陣容

▲團長 關内正一 ▲警務部長 (未定) ▲副團長 鈴木彌太郎

消防精神を体し、協心協力略に殉ずるの覚悟であります。警防團の誕生するに方り警城時報を通じて吾等團員の覚悟を上げます

地方民の最大關心事

平小鐵道問題

平小鐵道の路線が片濱を經由する星一代議士は「片濱經由」としては平市發展の將來性にあらざれば地方開發を望み得ず、と心血を注ぎ鐵道省及關係諸案として通過したものは今期が、第七十四議會を前に路線が時代一時湯本廻りに決定したと決定する空氣濃厚となり、同路線傳へられる同路線案も頗る有利地方民は夢からず期待をかけて線運動に心血を注いでいる星一代議士から十三年の暮押し迫つた二十三日片濱町長に情報を書したのを全市民は驚愕し大嶺、多田井兩市議を中心にマルトモホールで對策を協議、超へて一月五日江村町江館に、平小鐵道片濱經由實現期成同盟會」を結成、星代議士、關内縣議等諸席一同を激勵、沿線江名、高久、夏井四ヶ町村の片濱經由を期する猛運動は火蓋を切つた

大勢は片濱廻りに

必死の運動奏効

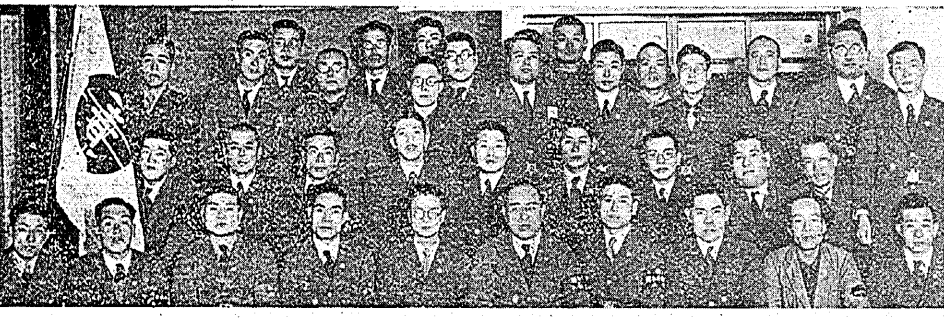
片濱期成同盟會では直ちに關係町村民七千余名の調印を集め陳情運動を起し、一方平市有志も呼應し各區長が陳頭に立ち調印を求め、關内縣議、大嶺、多田井兩市議、柴田徳二、井上貞治、鄭氏等中央に於ける星代議士、松本孫右門氏、助川代議士等を介し關係主務省へ陳情、内田鐵相時代湯本廻りに決裁したと傳へられる平小鐵道路線を片濱經由線に好轉せしめた

建議案採擇

星代議士の奮闘

戰場に於ける郷土勇士諸君へ

山崎忠兵衛



戦塵濤々彈雨下に征く大陸の幾山河、朝に一城、夕一壘攻め抜く榮えの郷土軍忠勇無比の皆様よ！曾て平の驕頭に、我等の市長が熱淚の送別の辭を受けられて汽笛一聲、萬歳を後にしてから幾日ぞ、あの旗波の間から見た感激のあの顔も、今は随分分が伸びておつかない顔になつたらう、それともチャッカリロヒゲでコールマンビゲか、カイゼルか、チャプリンビゲか、天神か、いやそれはさておいて、實に御無沙汰相すまね、戦線からのお便りは毎日の様に受けながら、戦後からの感謝文、慰問の手紙、報告書、思ふにまかせぬ有様を何とお詫びをしてよいか、平に「御容赦を、現地に於ける實況はラデオニュースに、新聞に、畫報に、映畫に、講義に、はば戦線はつきまですが、結局云へば男や女やと片付けられ、れば男や女やと片付けられ、小娘に障れど之は仕方がないよ、その通り、せめて銃後の心りと、青年團は各町に夫々

様子をお知らせする筈が届かぬ事もありませう、青年團にこんな事やらせてはどうか、あんなことやつてくれと率直に時には注意も願ひます、戦線後援として東洋平和、新秩序築きませうぜ、お互に、大君の爲め、國の爲め、又我等の子のために、いくさの庭にたいぬ身も現地の困苦憐れつゝ、意氣と熱とでゆきますよ、では皆様よ、その中に櫻の便り書きませう、終りに一詩高らかに吟じて余興にしませうか、一緒にやつて見て下さい

大陸濤々捲戦塵妖雲暗濤波氣倫國民決意如金鐵協力當難銃後人千里影裏津浦月落花恨風漢陽春堅忍持久戒荒怠億兆一心答祖神此筆置いたそのとたん、現地の便り託されて訪ねて來たのは漫談の皇軍慰問で皆様が御案内の湖舟さん、一方ならぬ歓迎を受けた喜び、一行が感激しての物語り、誰や彼やのお話も手に取る様に持前の話上手に聴く者は感激するやら笑ふやら、つまらぬ話、長とさぞ御迷惑な度こそ、ほんとに終り、左様なら(陸軍記念日前夜記す)(寫眞は平青年團幹部)

郷土部隊勇士の武運長久を祈る

磐城時報社 主幹 野澤武藏

兵隊さんよ

ありがたう

小兒兒童慰問文集

平第一校隊二の二

中田 順三

イタイサン、オゲンキデスカ
ボクハ、イタイサンガダイス
キデス。コノアヒダ、カイナン
ドモ、センリヤウシタサウデ
スネ、ニースノエイガデミマ
シタ。三月十日ノリクグンキネ
ニ、一年生ミナソツテ、ハの
ウバウオ宮ヘオマキリンデ、
ヘイタンサンノブウンチヤウキ
フヲ、オネガヒシテ来マシタ。
ボクハ、イツモゲンキデ、セ
ンソウゴツコランデアソビデキ
マス。ボクハ、ダンゼン、フタ
イチャウニナツテ、ケンラスイ
デ、テキノ中ヘツツコンデキ
マス。ヘイタイサンモ、ゲンキ
デ、シヤウカイセキヲコラシメ
テ、カツタ早カヘツテキタ
ダサ。ボクハ、イツモヨウ
ケンメイニ、ペンキヤウラシナ
ガラ、パンザイラスノラマツ
デキマス。ヘイタイサン、サ
ナナ。



兵隊さんへ

平第一校隊三の二

坂本 文哉

兵隊さんへ
毎日一生けんめいお國のために
はたいて下さつてどうもありが
たうございます。
ぼくも一生けんめいに勉強して
ゐます。
平はここの大へんあつたか
くなつて来ました。
グワイツツもクツ下もぬいでも
寒くありません。さしはだ寒
いですが、このかな所では毎日
元氣に學校に通ひ、すきな体操
や、修身や讀方、算術、習字など
先

兵隊さんへ

平第一校隊三の二

牧野 廣治

戦地の兵隊さんへ、おかわりあり
ません。寒い、戦地の冬も
元氣でお働き下さいまして、ぼ
くも此の頃は暖かになりました。
そちらも此の頃は暖かになりました。
すつかり春らしくなりました。
花が三つ四つ咲き始めました。
前の竹やぶでは、うぐいすがや
ばな四年生になります。私の弟
は、僕は、大きくなつたら、
えらい兵隊さんになるのだぞ
と云つて、いばつて居ます。私
たちは、強い日本の子供です。
一生けんめい勉強して、りつば

平第二校隊三の二

神 永 子

大ぶ暖かくなつて、まじりまし
た。櫻のつぼみも、ふくらんで
今にも開きそうです。三月十日
は陸軍記念日でした。私たちは
皆んな、そろつて、忠こんひに
おまいりました。それから私ん
しやうを上げて勇ましく、が
いせんするのを待ちまして居り
ました。私たちは、みまの學校
まで行きました。此間は、チヨ
コレトと兵隊と言ふふいがを
見ました。ニースもみまの
兵隊さんは、雪をふんで進軍を
するのださうです。寒い所を
どうも有がたうございます。三
月二日は、皇后陛下が赤ちやん
を、お生みになりました。赤ち
やんの名は、清宮貴子内親王殿
下と申します。私たちは、もう
につけ、聞くにつけ、何時も
兵隊さんに感謝して居ります
兵隊さんへ、私達陸軍の國民は
一生けんめい自分の務めに
はげんで居ります。御安心下
さい。
三月十日は、陸軍記念日なの
で、私達は忠魂碑に行き、亡

戦地の兵隊さんへ

平第二校隊五

高橋 茂子

兵隊さんへ御元氣ですか。
私達は毎日愉快に過して居り
ます。内地は暖かくなりました。
さし、ひどいせうね。見る
につけ、聞くにつけ、何時も
兵隊さんに感謝して居ります
兵隊さんへ、私達陸軍の國民は
一生けんめい自分の務めに
はげんで居ります。御安心下
さい。
三月十日は、陸軍記念日なの
で、私達は忠魂碑に行き、亡

平第三校隊五

田中 千代子

兵隊さんへ、お元氣ですか。
私はとても元氣で勉強してゐ
ます。
昨日は、陸軍記念日で、公園
へ忠魂碑参拝に行きました。
そして、當時の戦争のやうす
を、校長先生が、くわしくお
話して下さいました。
毎週の木曜日は先生方が、
兵隊さんの勇ましいお話や、
情深いお話を下さいます。
私はこの間、支那の人達はお
話を聞きながら、支那の人達
は、ほんたうにいかはうだ
と、つくづく思ひました。
それと一しよに、私達日本人
は強い兵隊さんのおかげで、
毎日安心して行けて、ほんた
うに幸福だと思ひました。
三月二日に、すがの宮たか子
内親王殿下がお生れになりま
した。
では兵隊さんの武進長久をお
祈りいたします。銃後の事は
御心配なく、どうぞ元氣で戦
つて下さい。さうなら
兵隊さんへ
平第三校隊六の三
新井 津由子
兵隊さんへおはようございます

勇士の皆様

平第四校隊二

高田 公正

梅の花一輪々と咲き香る様
な暖かになり我々の郷土にも
春が訪れて参りました。此處
彼處にと殘敵掃蕩をしつゝ共
産主義を取除け平和な支那
を建設する任務にある兵隊
さん元氣ですか。今や銃後の國
民一齊に熱と努力とを以て經
済方面に努めて居ります。物
資節約、資源愛護などと云ふ
標語が作られ、少しでも戦地
の兵隊さんに不自由をかけて
はならないと切つて居り
ます。此の三月十日の陸軍記
念日を期して男子は忠魂碑参
拜、女子は戦歿勇士のお墓参
りをし、當時の戦のけしきか
つたこと、又事變の起りなど
についてお話を伺ひました。
そして今も昔も變らぬ日本精
神を深く胸にきざみつけ
られる様な思ひがしました。
北支南支中支に居る皆々様、
並々な努力、水一滴も口
にしない時もあらう、或は飯
一粒だに口にしない時もある
でせう、こゝろふ様な事を考
へると小さな胸が血湧き肉躍
るの思ひがします。我々はか
うして安心して勉強や運動の

兒童銃後會組織

市内小學校中合せ

市内各小學校では校内にそれぞ
れ兒童銃後會を組織すること
を申し合せ四月新學期を期し結成
式を舉げる
全校兒童が毎月一錢、職員五
錢を献金し、三ヶ月毎に兒
童家族の出征者に慰問文、慰
問袋を送り、銃後の奉仕とし
て毎月定期的に遺家
族を慰問する